



あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



14 CAMPUS NEWS

13 サークル紹介

11 My way M g way

09 ACTION フェアトレード活動報告

07 特集 シンポジウム
「MGらしさが光るキャリア教育」

05 学問へのいざない
「心」の測定法を学ぶ
「意匠」の背景を学ぶ

01 誌上ゼミ
イギリス文化を「旅」する
「造形の旅、言葉の旅」

「Partir (パルティール)」はフランス語で出発する——
——新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

イギリス文化を「旅」する ～造形の旅、言葉の旅～

時代を超えて、心に刻まれる造形の世界へ

19世紀の消費文化の変化から
中産階級に独自のスタイル

吉村 隆さんはイギリスの造形文化に興味があり、卒業論文も書き上げました。

「家庭の天使」が女性の理想像。白いドレスは高価で、身分不相応という「ドレスコード」があったのですね。

今日はその成果も踏まえて、イギリス文化を語り合う「旅」に出てみたいと思います。イギリスの造形を振り返ると、19世紀に消費文化が著しく発達し、モノと人の関係も大きく変化しましたね。

佐々木「ウエディングドレスは白」というドレスを着たのではなく、自由な意志の

たことを本で読み興味を持ち調べました。

当時の中産階級は質素が美德とされ、「家庭の天使」が女性の理想像。白いドレスは高価で、身分不相応という「ドレスコード」があったのですね。

一方で、アルバート公との結婚式で着たヴィクトリア女王の白いドレスはすっと憧れでした。そんな中、中産階級の経済を意識した設計になっています。例えば貴族の「カントリー・ハウス」には舞踏会などで使うサルーンという部屋が、中産階

級では食事が終わって家族でくつろぐドローリングルームが特徴的でした。

英文学科
吉村典子
准教授

2010年度英文学科卒業論文セミナーの皆さん
平館佑美さん、水戸彩歌さん、
山川彩奈さん、長谷部淳美さん、
廣瀬ゆいさん、佐々木仁美さん



になつたと強く感じます。

山川 私は、ガートルード・ジークルという女性のデザイナーが制作した庭を対象としました。彼女は「色」にこだわり、絵画の手法を導入しました。

周りの草花との融合。白とピンクと薄紫といったやさしい感じの色彩が特徴と言われますが、オレンジ・赤などの色彩豊かなものも採り入れています。植物本来の色をどう活かすかを考えながらデザインしていました。豊かな色の組み合わせで新しい庭の形を作り上げました。

伝統的な形式の変化と崩壊 そこに「日本」があつた

吉村 伝統的な形式や価値観の変化が19世紀に見られますね。その変化や崩壊

に日本が関わっていることを平館さんの論文から読めたのですが、どうですか。

平館 日本の影響を強く受けたクリスト

ファー・ドレッサーについて論じました。

彼はデザイナーでもあり植物学者。当時のブームもあり日本の芸術を研究し自分の作品に活かしました。

私は数ある作品の中で陶磁器を取り上げました。特徴としては、まず装飾構成。隙間が埋め尽くされていない余白があります。その他、非対称性や題材に植物などを採り入れ、それまでのイギリスにはなかつた形を創り上げました。

ただ私たちの目からすると日本の焼き物とは違います。日本の芸術を写し取つたのではなく、自分の中で再構築、自分なりの「日本」を作ったのだと思います。

台頭してきた「ユース・カルチャー」 模索から新しい様式へ

吉村 現在の暮らしのスタイルの原形が19世紀から20世紀初頭にできたといえますね。

しかしながら形式化し「固定観念」





吉村典子 准教授

スパイスを加わえていました。

廣瀬 ローラ・アシュレイの場合はヴィヴィアンに比べると保守的には見えますが「カントリー」をファッションの一つのスタイルにしたという意味では先鋭的です。幼い頃おばあちゃんのところで過ごしたヴェールズの

となつたところもあります。さらにそれを破壊したり、巧みに利用したりしたのが、戦後顕著になるユース・カルチャーだったと言えるでしょう。

水戸 私が研究したヴィヴィアン・ウエストウッドは1970年台のパンクファッションの代表的な人です。破壊的なデザインや過激な性描写などで表現しました。

80年代に入るトイギリスの歴史・文化を引用するという傾向が出てきました。ただ、単に引用するだけでなく例えば伝統的な衣装に胸が見えるというような「こうあるべきなのにならうと違う」という

伝統からの影響を受けたデザインをしていますが、彼女らしいスパイスも加わっています。昔からの「仕事着」をヒントに、

イギリス造形の表現としての魅力

吉村 こうして見るとそれぞれテーマとした対象や時代が違つても、共通なものがあるように思いますね。

長谷部 イギリスの造形には温故知新といふところがあると思います。

廣瀬 美しいものを追求し形にしていくという印象です。

水戸 そう、美に対する貪欲ですね。

吉村 そうですね。ただ単に美的価値だけではなく、歴史を記号化し、それを時には風刺的に、時には全く異なる文脈で用い、多元的に展開するという表現の過程があると思いますね。

女性のためのより動きやすい服をつくりました。「女性らしさ」も大切にしていて、特に襟や袖をエレガントにデザインすることを意識していると思うのです。



廣瀬ゆいさん



長谷部淳美さん



佐々木仁美さん





水戸彩歌さん



平館佑美さん



山川彩奈さん

ところで、私のゼミでは、造形物を議論の対象としていますが、その造形物と

きます。

自分の考えを言葉にする「言葉探しの旅」だったと思いますが。どうでしたか。

佐々木 すぐ難しかったです。でも、自分の言葉で語る努力をしていく中で、言いたいところに近づいたような気がします。

長谷部 湖水地方にあるブラックウェル館

というカントリー・ハウスに行きたいですね。

周りの自然と融合し、「家族のための家」

を感じさせる建物です。

佐々木 マンチエスターの衣装美術館に行きたいですね。19世紀の暮らしの側面

がわかると思います。

平館 ドレッサーの出身地グラスゴーにあるケルビングローブ美術館に行ってみたいですね。彼の作品もたくさん所蔵しています。

廣瀬 ローラ・アシュレイの幼いころに影響を与えたというウエールズがいいですね。

水戸 ヴィクトリア・アンド・アルバートミュージアムに行つてみたいですね。ヴィヴィアンの作品もありますが、彼女が若い頃、古い衣装を研究した所でもあります。

吉村 色々調べていくと、現地で見てみたい、体感してみたい事や場所もでてきたのではないかでしょうか。最後に読者の皆さんにも紹介してください。

山川 ガートルード・ジーキルの作品を再現したハンプシャーにある庭園がおすすめです。様々な色彩の庭を見ることがで

ることも出でてくるでしょう。そしてまた「言葉探しの旅」のさらに奥を目指してみてください。

ゼミ生イチ押スポット・関連ウェブサイト

ヴィクトリア&アルバートミュージアム(ロンドン)

<http://www.vam.ac.uk/>

衣装美術館(マンチェスター)

<http://www.manchestergalleries.org>

ザ・マナー・ハウス(ハンプシャー)

<http://website.lineone.net/~uptongrey.garden/>

ブラックウェル(ウィンダーミア・湖水地方)

<http://www.blackwell.org.uk/>

ケルビングローブ・アートギャラリー&ミュージアム(グラスゴー)

<http://www.glasgowlife.org.uk/museums/our-museums/kelvingrove>

ウェールズ観光局

<http://www.visitwales.com/>





「心」の測定法を学ぶ

心理行動科学科 大橋智樹 教授



する実践的な研究を行っています。

基礎から応用へ 実験室から現場へフィールドを移す

私の専門は、産業心理学や人間工学、あるいは安全工学と呼ばれる分野です。大学院生の頃の研究テーマは実験心理学で、プログラムを組んで暗室で実験をしていました。原子力安全システム研究所に赴任後は、交通・医療・航空など、様々な産業現場で発生するヒューマンエラー防止のために心理学の知見を応用

は、工事現場の視察に基づいて安全対策の提言をしたり、作業員さんへのヒヤリングを通して事故防止策を一緒に考えたりしています。また、電気事業に関わる大手企業とは、安全に関する情報の共有システムを社内に構築し、さらに、それを根づかせる目的の産学協同プロジェクトを組んでいます。情報共有システム設計への助言や、評価アンケートデータの分析と提言などが担当です。

安全神話が崩壊しつつある日本の現代社会において、広くニーズのある研究領域かもしれません。

ヒューマンエラーに関連する 生理的メカニズムを解明

一方で、科学的な基礎研究にも力を入れています。二〇一〇年度から獲得し

た文科省の科学研究費研究では、ヒューマンエラー発生の事前予測を目指して、眼球運動、発汗、大脳前頭葉活動等の基礎的なデータを測定し、それらがヒューマンエラーの発生にどのように関連しているのかを実験的に検討しています。

この研究が進めば、例えば、車のハンドルにつけたセンサーから運転者の生理的変化を読み取って、事故の危険性が一定以上に高まった場合には、アラームを鳴らしたり、ブレーキをかけたりといった応用も可能になります。

心理学というと臨床心理学のイメージが強いのですが（実は私も臨床心理士資格を持っていました）、私は「心を科学する」という心理学の原点に立って、それをどれだけ生活の現場に関連づけられるかを追究したいと考えています。その意味で私の専攻は、「現場心理学」と呼ぶべきかもしれません。

Profile

大橋智樹 教授 東京都出身。東北大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。臨床心理士。日本学術振興会特別研究員、(株)原子力安全システム研究所研究員を経て現職。○信条「明日できることは今日するな」

私のおすすめ本

数量化革命 THE MEASURE OF REALITY
アルフレッド・W・クロスビー 著

13世紀に西欧で発明された「数量化」が列強の力の源泉だと説く本。原題「リアリティの測定」は、まさに心理学が追求してきたことです。数量化をしのぐような新たなパラダイムシフトを考えたいですね。



これが学びのツボ！

「大学の中だけで終わらせない!」学問と日常とどうリンクできるかを学んで欲しいですね。そのリンクの機会を作ることが教員の役目でしょう。その機会を活かして文字どおりチャンスに変えるのは学生さん自身です。



「意匠」の背景を学ぶ

生活文化デザイン学科 大久保 尚子 准教授

意匠に時代の感性を読む、
たとえば「見立て」

私の担当する服飾美学、服飾史、生活造形論では、服飾や生活造形について、他の芸術とも接する表現の特質や成立背景、流行など社会的問題等を考えます。歴史の中に表現の可能性を探り現在を位置づけることは、将来の展望にもつながります。

研究対象の二つに「見立て」の意匠表現があります。江戸後期には、仲間内で共通認識を持つテーマを捻った形で表現する「見立て」が流行しました。鑑賞者は連想を働かせてそれを読み解き、機知を楽しむのです。有名な作品に、江戸の名物や風俗を小紋風にかたどった山東京伝の見立小紋集『小紋裁』があります。これ自体は読んで楽しむ遊びの意匠でしたが、興味深いことに後に実

際の染織にも似た表現が現れます。明治期にも西洋近代図案受容の傍ら江戸のセンスは引き継がれます。ご紹介した『縞とかすり』では京伝作品を引用した「尺」や新風俗「夜会」、国民の関心事であった海軍の「碇」等、テーマの着眼の結果、図像的にも面白い図案が創作されています。

インターネットで 資料探しの幅を広げる

私の分野では、現代の雑誌記事から江戸時代の模様雛形まで様々な一次資料をベースに研究を進めますが、デジタル化の進展で学生の卒業研究の可能性が広がりました。

例えば、大坂と江戸の役者絵の顔立

ちや衣装の表現を比較した学生は、早稲田大学演劇博物館のデータベースを使い、面白い検討ができました。

雑誌専門図書館のデータベースでファッショントマトを検索し、今日の多様化する服飾観を探ることも可能です。でも元の雑誌を手にとり見えてくる背景こそ大切。ぜひ原資料に触れる機会を持つべきです。

多様な情報収集手法を身につけ、服飾、装飾意匠から時代の感性を捉える研究を学生の皆さんと進めてゆきたいと思います。



大久保 尚子 准教授 東京都狛江市出身。大学卒業後都立高校勤務を経て大学院に戻り、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科単位取得退学。1995年より宮城学院女子大学に勤務。○信条「感性の幅を広げ続けること。愛を忘れず、絶望せずに進み続けること」

私のおすすめ本

縞とかすり 後編 深野古香著
明治・大正図案集の研究 樋田豊次郎 横溝廣子編

『縞とかすり後編』は明治38年刊の創作図案集。外国のデザイン様式の撮取と同時に見立趣向もみられます。近代の図案集の画像をDVDに収録した『明治・大正図案集の研究』で閲覧できます。

これが学びのツボ！



当事者の感性に迫るには、自分が「好き」なものに限らず幅広い表現を受けとめることが大切。服飾表現を研究するためには、言語、絵画、映像など他の表現手法にも注目すると立体的な把握ができると思います。

宮城学院

MG らしさが光る キャリア教育をめざして

大学設置基準の改正にともない、2011年度より正課の教育科目としてキャリアガイダンスを含むキャリア教育の実施が義務づけられています。

こうした流れの中で、初代校長E.R.プールポーの志を受け継いだ

“宮城学院らしい”キャリア教育のあり方を考えるシンポジウムを開催しました。



第一部

プロフェッショナルが説く 「今、なぜキャリア教育なのか」



動”になっています。

学生が、知的集約社会にふさわしい人材となるために大切なのは「職業観」です。これは、教室で学ぶ「理論」とインターネットシップなどの「実践」を通して醸成される「自己理解」と「他者認識」が結びついたもので、大学の講義において自己理解を得るために、教員が専門分野を身近な話題に置き換えるなどの工夫を施し、学生に自分のこととして受け止めさせることが重要です。

また、加藤先生は立命館大学と米

第一部は吉崎学長の挨拶に始まり、立命館大学の加藤敏明先生による基調講演が行われました。

まず、1970年代の米国から現在の日本まで、「キャリア教育とは何か」をひも解きます。かつてのキャリア教育は、高等教育の中に職業訓練を取り入れたものでしたが、今は教職員の意識と教育力の向上により、従来の教育を組み替える“ムーブメント”=教育改革運動

国シンシンナティ大学における取り組みを紹介し、実際に立命館大学において行われ好評を博した日本文学の講義をはじめ、「課題解決」をテーマにしたゼミで出された学生のアイディアが企業に採用された事例、さらに教員の評価システムに至るまで、モデルケースを交えて具体的に解説してくださいました。

りません。」そのメッセージに、参加者全員が熱心に耳を傾けていました。

意欲あふれる学生たちの 「社会参画プロジェクト」報告



加藤 敏明先生

立命館大学共通教育推進機構教授・
キャリア教育センター長

東京都出身。共同通信社、日本経済新聞社、札幌国際大学を経て2003年より現職。文部科学省の「派遣型高度人材育成推進委員会」委員などを歴任したほか、九州大学、京都女子大学など多数のキャリア教育評議会委員を務める。

宮城学院のキャリア教育の試みである「体験型学習プログラム」と「自主活動プロジェクト」を通じ、社会活動に参画した学生による報告が行われました。



社会参画プロジェクト

体験型学習プログラム
日本と世界をつなぐ日本語教員
プロジェクト

PROJECT
01



日本文学科3年
平塚愛奈さん・
高橋みゆきさん

韓国での異文化交流を通じ「見える文化」は「見えない文化」が支えていることに気づいた。日本人としての誇りを持ちつつ、固定観念にとらわれない人間力を身につける必要性を実感させられた。

第二部 学生への激励メッセージ 活発なディスカッション

テーマの選び方、具体的な活動、それによって何を学び、今後どんな課題に取り組んでいくかなど学生たちの発表はいずれも的確で、自分たちのめざすべき将来像までを導き出しました。その成長ぶりには感慨深いものがありました。

第二部では、戸野塚学生部長より「自主活動プロジェクト」のコンセプトなどが説明されました。続いて佐々木教務部



最後は、進行役の平本先生も加わり、学問と実社会をつなぐキャリア教育における教職員のあり方について意見交換を行いました。教職員がしっかりと学生を見つめ、話し合い、省察し、評価をライドバックすることが大切であり、そこへ宮城学院らしい個性を組み込んでいきたいといった意見が活発に交わされました。

新たな一步を踏み出した宮城学院のキャリア教育に、今後もご期待ください。

自主活動プロジェクト
楽食
プロジェクト

PROJECT
02



食品栄養学科3年
花澤聰美さん

学食の設備・メニューの提案や、イベントの企画に携わることで、栄養面だけでなく楽しく食べることの重要性を認識。また、失敗から多くのことを学び、「挑戦する」意欲が高まった。

自主活動プロジェクト
国際支援活動
Triangle

PROJECT
03



国際文化学科3年
岩館翠さん

フェアトレードに関する啓蒙活動や大学生協との連携を実現。「ホウ・レン・ソウ」の徹底や責任の所在を明確にするなどの課題をクリアし、視野の広い国際貢献を行いたい。

私にもできる 国際協力活動

インドに興味があった岩館翠さんが国際協力活動に関わるきっかけとなつたのは、ネパールの女性や子どもの支援団体を知ったこと。「様々な国際協力活動があると思うのですが、フェアトレードを知ったことで自分でもできるのでは…と興味を持ちました」と語る岩館さん。

ネパールの女性が作成したビーズ製品などを日本で販売し、収益の一部を直接還元するというフェアトレード。「さつそく周りの友だちと一緒にやろうと声をかけました。いろんな人に参加してもらつて、トライアングルができあがりました。」



フェアトレードで購入したお気に入りのシュシュ。

Action フェアトレード活動報告

国際支援活動 Triangle 代表 岩館翠さん

本学では様々な学生の皆さんによる自主活動・社会活動が行われています。「ACTION」ではその自主活動の様子をお届けします。今回は国際文化学科3年の岩館翠さんを中心に活動されている「国際支援活動 トライアングル」について取材しました。



気に入った商品を 買うことが国際協力に

「自分の気に入った商品を購入することでできる身近な国際協力。負担もなく、無理なく継続的な援助ができます。」

トライアングルでも昨年仙台や東京にある団体から委託で商品を預かり、大学祭で販売。教室1室が埋まるほど のアクセサリー、生活雑貨、紅茶、コーヒー、石鹼、オリーブオイルなど様々な商品を用意し、国際協力の翼を担うことができました。



生産者に正しい対価を届ける

最近、雑貨店などでも目にするようになったフェアトレード。いったいどんなものでしょ。「発展途上国の農産物や雑貨等を適正な価格で輸入・消費する公正取引の種。途上国の貧困解消や経済的自立を促すねらいがあります」輸入業者や小売業者などの中間部人の人件費を減らすことでの生産者の労働条件に見合った正しい対価を届けようとしている。子どもを働かせて生産されたものは扱っていないこともフェアトレードの特徴です。

フェアトレードの流通



なったフェアトレード。いったいどんなものでしょ。「発展途上国の農産物や雑貨等を適正な価格で輸入・消費する公正取引の種。途上国の貧困解消や経済的自立を促すねらいがあります」輸入業者や小売業者などの中間部人の人件費を減らすことでの生産者の労働条件に見合った正しい対価を届けようとしている。子どもを働かせて生産されたものは扱っていないこともフェアトレードの特徴です。

宮城学院のキャリア教育



宮城学院女子大学が社会に輩出する人材

就職支援(情報提供、相談、講座)

国際協力の第一歩は 知ること学ぶこと

「学生には制限があり、できることも限りがあるかも知れません。ただ、学ぶこと、そして伝えることはできるはずです。」



どの地域がフェアトレードの商品を生産しているのか？ その地域にはどんな問題があるのか？ フェアトレードの問題点は何なのか？ など自分たちの目線で学び、広く伝えていくことも国際協力の大切な役割のひとつだと岩館さんは考えています。
国際協力に興味がある人、海外に興味がある人、大学生活で何かしたい人、新しい形の国際協力に一歩踏み出してみませんか？

問い合わせ先 / triangle5awo@yahoo.co.jp ブログURL / <http://mg-triangle.seesaa.net/>

お客様との大切な出会い。
幸せな「時間」を
届けたいと思つています。



[取材]

広報室インターンスタッフ

高橋 紗希さん（心理行動科学科2年）

高橋 真衣子さん（心理行動科学科2年）



—どのような経緯でお店を開かれたのですか?

お店の開業までいろいろと経験しています。卒業後、仙台のクッキングスタジオでアシスタントをしたり、専門学校でお菓子づくりの基礎を勉強したり。フランス菓子のお店でも働いたのですが、シェラは「料理の鉄人」に出るほどのすごい人で勉強にもなりましたし、お菓子づくりを続けたいと思いました。

その後、宮城学院の家政学科の副手として7年ほど調理実習を担当させていただきました。母校には本当にお世話になっています

いろいろな経験が今のお店の運営に活かされていると思います。

—大学時代の友人とお店を開かれたんですね?

やっぱり好きなことをしたいと、カフェを始めました。大学時代に同じ学科にい



気品がありゆったり落ち着く店内



やさしく語りかける先輩の言葉



甘夏を使ったケーキはフルーティ

た岡崎ゆかりさんと一緒に開業したのですが、ずっとお店を持ちたいねと話をしていたんです。ただ、具体的に何をしたらいいのか見当も付かず…。でも言い続けていれば、いつか実現するのでは、という予感はありました。

岡崎さんは他のところでカフェの経験があり、運営のノウハウなども持つていて心強かったです。本当に大学でいい出会いができたと思います。

—お店のこだわりは何ですか?

お店で使う食材はできるだけ地元のものを使いたいと考えています。

例えば、人気商品のキッシュの卵は、蔵王の竹鶴物語さんのタマゴを使っています。ベーコンは田尻のアグリハウス加護峰さんのものを使ったりと材料にこだわっています。アイスクリームも手作りにこだわっています。

まことに季節のパフェなども旬の食材の良さを楽しんでいただいている

—お店をこれからどのようなものにしていきたいですか?

自分たちが「いいな」と思うものをお店で出してお客様にも喜んでもらえると、本当にうれしいですね。

人は「心」で食事をするのだと思いま

ます。栄養価なども大切にしながら、「食べること」を通して、お客様に素敵なかな「時」を楽しんでもらえることを目指しています。

—最後に、私たち後輩にアドバイスをお願いします

お店でも繰り返し来ていただけるファンの方が増えたとうれしいですね。やっぱり人と人のつながりが大切です。私自身が

そうでしたが、大学時代に知り合う人とのつながりや出会いは、将来の財産にな

なると思います。

人のつながりと熱い夢を大切にして頑張って欲しいです。

Profile

浅井朋佳さん

1992年 学芸学部家政学科卒

クッキングスタジオのアシスタント、宮城学院女子大学家政学科の副手、高齢者施設の給食担当などを経て、2008年より、カフェタントルタンをオープン。

cafe tant pour tant

カフェ タンブルタン

仙台市青葉区一番町4丁目1-22 FUJIビル2F

TEL 022-265-1816

○定休日／毎週火曜 月1回月曜(不定)

○営業時間／11:00～20:00(月・祝は19:00まで)

ブログ「cafe tant pour tant な日々」

<http://blog.livedoor.jp/cafetantpourtant/>

サークル紹介 01

少林寺拳法部

- 部員数：16名
- 活動日：火・木・土曜日
- 活動場所：大学体育館

技の美しさを競いあう武道です

よく中国の武道と間違えられますが、少林寺拳法は日本で始まったものなんです。2人で組む「組演武」と1人でおこなう「単独演武」があって、私は東北福祉大の学生と1年の時から組んで練習に出ています。

組演武は突きや、蹴りや、投げや、受け身などの流れを話しあって、2人の息のあった美しい技の流れを競い合います。たまに投げなどをアクロバチックに決めようとしてケガしたりしますけど…。

大学以外でも道院という所で練習していて、道院の先生が大学にも教えに来てくれます。

楽しく練習して護身術も学べます！

昇級・昇段試験や大会へ向けての基本練習、演武練習をしています。私は初段ですが、少林寺拳法は九段まで。長い道のりですが、ひとつずつ上を目指したいですね。大会も「市大会」「県大会」「東北学生大会」「東北新人学生大会」「全日本学生大会」とたくさんあります。

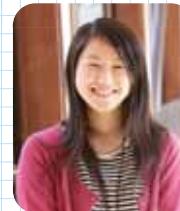
少林寺拳法は護身術も身につくので、女性が習うのはいいと思います。何か体を動かしたいという方、ぜひ少林寺拳法を始めませんか。



気合いを入めて練習！



仲間と一緒に頑張る！



主将
佐藤暁子さん



はじめて……いい感じ！



演奏会、いい感じ！



部長
後藤諭美さん

サークル紹介 02

クラシックギター部

- 部員数：28名
- 活動日：水・金曜日
- 活動場所：C407 教室 小ホール

40年の歴史を持つサークルです

わがクラシックギター部はなんと40年の歴史を誇っています。だから、OGの方々もたくさん。毎年12月に行われる定期演奏会でもいっしょに合奏していただいて、勉強にもなるし、大きな感動もいただいている。

合奏する曲はマイケルジャクソンやいきものがかりなどポップスやロックもあります。先生にクラシックギター用に素敵にアレンジしてもらっています。

個性的なメンバーと一緒に楽しみましょう！

部内発表会、東北大・東北福祉大学と合同で連盟演奏会などもしています。他の大学の人と一緒に演奏すると良い刺激になりますね。

メンバーはいま28人で個性も特技もバラバラ。料理が得意な人、ポスターを作ってくれる人、縫い物が得意でギターケースを作ってくれる人…。同じ曲を弾いても独自の音が出るから面白いですね。

他学科の話などが聞けるので、サークルには絶対入った方がいいと思います。ギター初心者の人も、楽譜が読めない人も大丈夫。一緒に楽しみましょう！

生活文化デザイン学科 学科展

2010年度生活文化学科(3年)・生活文化デザイン学科(1年)・生活文化デザイン学科(2年)の「学科展」が2月1日～5日 東北電力グリーンプラザで開催されました。「学科展」は大学で学んだことを社会に還元することを目的としたイベントで今年で8回目。卒業論文・卒業設計のほか、在学生の設計課題作品などが展示されました。インテリアデザインや住居デザインなどの成果に来られた方々も真剣なま



なざしで見入っていました。

会期中の2月2日には「建築設計講評会」を開催。仙の建築系大学の先生方や第3線で活躍している建築家の方々をゲストクリティークとしてお招きし、学生たちの作品を講評していただきました。専門の方々のいろいろな視点からのご意見をいただき、とても有意義な日となりました。

JALT(全国語学教育学会)仙台支部会の発表会

2011年1月30日、仙台市市民活動サポートセンターにおいて「全国語学教育学会(JALT)仙台支部会」が開催されました。

この日は、5つの大学・高等学校的学生生徒8名による、「Student Success Stories」の発表。宮城学院からは国際文化学科の学生3名が参加しました。「いかに

てここまで英語を話せるようになったか」を、英語によるインタビュー形式で発表しました。

発表者に英語を指導しているマーク・ヘレガス教授も「宮城学院に入学する以前は、ほとんど英語を話せなかつた3人が、大学の授業や自身の訓練でバイリンガルのように話せるようになりました」と大絶賛でした。



美術館などの施設を見学するというものです。

学芸員課程での 沖縄研修旅行

2010年12月20日～23日、学芸員課程の「博物館実習」の一環として、沖縄研修旅行が実施されました。学芸員が必要な専門的知識を身に付けることを目的に、沖縄の博物館・

させていただきました。

あわせて、沖縄の世界遺産を見学し、平和祈念資料館などで沖縄特有の文化、沖縄の抱えてきた歴史などを巡りました。それぞれの施設で、学芸員や館職員の方々から施設の運営など現場の貴重なお話をうかがいながら、バックヤードなども見学

させました。いかがでしたでしょうか。パルティールはこれからも学生たちの生き生きと輝く姿を皆さんのお手元にお届けしたいと思います。どうぞお楽しみに！

編集後記

(M・F)



Letter Essay 01

プールボーの精神

宮城学院の初代校長プールボー女史は米国人宣教師ですが、江戸時代の幕藩体制が終わって20年も経っていない日本に来て、宮城女学校を設立し、日本の若い女性たちの教育に全力を尽しました。男尊女卑が深く浸透していた日本社会において女性の自立した人生を可能にするためには、女性も神の前ではかけがえのない一人の人格であることを教え、神は女性にも自分の意思で自分の人生を切り開いていくように求めていることを語り伝えなければならないと固く信じていたからです。

プールボー校長は日本の女性たちが男尊女卑の因習の中でひどく惨めな状況に置かれている事実をアメリカの教会に報告し、日本の女性を神による救いに導くために多額の募金を集め、仙台の中心部に土地を購入し、大きな校舎兼寄宿舎を建築しました。プールボー校長の女子教育への情熱は、「日本の女性を男尊女卑の因習から解放する」という一点にありました。

明治政府の国粹主義的政策にも最後まで抵抗したプールボー校長の精神は、女性の自主・自立をめざす宮城学院の精神として今日でもなお生き続けているのです。

宮城学院女子大学 学長
吉崎 泰博

MG archives



E.&R.Missionaries-1949

宮城学院と東北学院の戦前・戦後を繋いだ E.&R. (The Evangelical and Reformed Church) 宣教師たち。

宣教師たちは日本の戦時体制が厳しくなると、開戦とともに逮捕、拘束され、帰国を余儀なくされた。しかし彼らは日本の敗戦を見越し、いずれ困難な状況に苦しむであろう日本の国民を励まし支援するための準備をはじめていた。そして終戦後いち早く来日し、仙台空襲で破壊された教会や学校の復興支援に取り組み、新たな学校のスタートのために力を尽くしたのである。(写真・文 宮城学院資料室)